



会下山遺跡って どんな遺跡？

芦屋市三条町、市立山手中学校のすぐ北西に位置する会下山遺跡は、弥生時代(今から1900～2200年前ごろ)の人々が暮らしたムラの跡です。標高約200mの山頂からは、芦屋の市街地だけでなく、大阪湾を中心に、東は大阪平野や生駒山系の山並みを、西は神戸市東部のまちを見渡すことができます。

このように、見晴らしの良い高い場所にある弥生時代のムラを「高地性集落」と呼びます。会下山遺跡は山頂から山裾まで山全体に広がっており、発掘調査によって、竪穴住居跡や祭場跡、火たき場跡、柵跡、堀跡などが見つかっています。

会下山遺跡では、土器や石器など、弥生時代のさまざまな食器や道具が出土しています。土器は、地元で作られたものだけでなく、河内(大阪府)や讃岐(香川県)、近江(滋賀県)で作られたものもあり、さまざまな地域の人々と交流していたことがうかがえます。また、鉄器やガラス小玉、中国大陸から持ち込まれた青銅製漢式三翼鏃(せいどうせいかんしきさんよくぞく)〈芦屋市指定文化財〉など、当時、大変貴重な金属製品やガラス製品も見つかっています。

会下山遺跡では人々がどのような暮らしをしていたのか、興味深いですね。



1 会下山遺跡山頂からの眺望

2 斧やおもり、砥石や矢じり、投弾などの石器

3 さまざまな形の弥生土器

4 矢じり、ノミなどの鉄器

5 中国大陸から持ち込まれた青銅製漢式三翼鏃

6 三条文化財整理事務所での展示



山の上に暮らしたナゾ

弥生時代の人々は稲作を中心に生活していましたが、会下山遺跡をはじめとする高地性集落に暮らした人々は、なぜ稲作に不向きな標高の高い山の上に暮らしたのかはナゾのままです。

「争いに備えた見張り場や逃げ城」説や、「洪水などの自然災害から避難した」説、「木材を手に入れるため」、「鉄器を製作するため」、「目立つ場所を人やモノが集まる交流拠点とした」など、さまざまな説が唱えられています。皆さんもぜひ会下山遺跡を訪れ、弥生時代の人々が山の上に暮らした理由を考えてみてください。



会下山遺跡の復元模型(芦屋市文化財ボランティア 星野剛一氏制作)



発掘調査当時の会下山遺跡(昭和30年代)

会下山遺跡を守り、伝える

会下山遺跡は弥生時代の社会を解き明かす貴重な遺跡であることから、1960年(昭和35年)には兵庫県史跡第1号に指定され、さらに2011年(平成23年)2月7日には国指定史跡に指定されました。芦屋市では、会下山遺跡の価値や魅力をこれからも守り、伝えていくために、今年度から「史跡会下山遺跡保存活用計画策定事業」に取り組んでいます。さらに、12月には会下山遺跡と芦屋のまちの繋がりを考えるフォーラムも実施します。ぜひご来場ください。

※詳細は広報あしや11月号にてお知らせします。

もっと知ろう！会下山遺跡

会下山遺跡に関する展示

三条文化財整理事務所 展示室

- 所在地 三条町39-20 (市役所三条分室3階)
- 開館日 月曜日・木曜日(祝日・12月29日～1月3日を除く)
- 開館時間 午前10時～午後4時



ホームページ

美術博物館 歴史資料展示室

- 所在地 伊勢町12-25
- 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館翌平日休館)、年末年始、展示替え期間



美術博物館
ホームページ

会下山遺跡の冊子・リーフレット

国際文化推進課の窓口で配布しています。ホームページでPDF版もご覧いただけます。



ホームページ



会下山遺跡出土品 3Dモデルで体験

大手前大学史学研究所が、会下山遺跡の地形や出土品の三次元データを公開しています。



大手前大学史学研究所
Sketchfab